

## 頭痛にまつわる都市伝説

## 第7回 く禿に頭痛なし!?

文 清水俊彦

text by Toshiko Shimizu

禿というイメージがあまり良くないのですが、正式には医学用語で禿頭症もしくは頭部脱毛症と呼んでいます。従来から頭痛があると禿げないとよく言われているのですが、果たしてその根拠はどこにあるのか？ただ単に頭痛の悪いイメージを少しでも良くするために言われているだけなのでしょう？

まず考え得るのは、慢性頭痛の代表格である片頭痛が約4対1の割合で圧倒的に女性が多いことに由来しているのではないかとことです。片頭痛は脳血管が異常な収縮と拡張を繰り返すことで起こるのですが、これには脳血管内のセロトニンという神経伝達物質の増減が関与しています。

セロトニンは女性ホルモンのエストロゲンとその構造が近似しているため、この2つの物質は連動して増減するとされています。従って女性の性周期である月経期間もしくは排卵日前後のエストロゲンの急激な増減に伴い、脳血管内のセロトニンも連動して変動するため、女性の場合、この時期に片頭痛が集中的に起こりやすいとされています。このエストロゲンは毛髪の成長を促進し、その生长期間を持続さ

せる作用もあるため、何となく片頭痛は女性ホルモン優位な疾患というイメージから、片頭痛もちは禿げないと都市伝説が生まれたのではないかと思います。

また欧米の報告では、頭部MRI装置を用いた、脳血管検査で片頭痛発作の最中には脳血管のみならず、頭蓋骨の外側を灌流し、主に頭皮を栄養する浅側頭動脈が異常に拡張し血流が増加していることが報告されており、また私も30数年前に当時としては最新の医療機器であった経皮的ドプラー測定器を用いて、片頭痛患者さんの頭皮の血流が片頭痛のない方よりも増加していることを博士論文で報告しています。

このような結果から頭皮の血流が増加するため、毛根部へ栄養分が行き渡り、毛髪の発育が良くなることも片頭痛もちが禿げにくいことと関連しているのかもしれない。しかし、片頭痛の増悪因子として働く甲状腺機能障害のうち、特に甲状腺機能低下症を併発している際には、円形脱毛症が出現することが多く、注意が必要です。

男女ともに女性ホルモンと男性ホルモンを有しており、そのバランスが崩れた際に、禿頭症や体毛が異常に増加

する多毛症が出現するため、安易に都市伝説にとらわれず、背後に重大な疾患が潜んでいるかを注意深く見極めることが必要でしょう。

## Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーフケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すぎの木クリニック、マミーズクリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クローズアップ現代」など、テレビ出演も多い。「頭痛女子のトリセツ」（マガジンハウス）をはじめ、頭痛関連の著書多数。



新刊「マンガでわかる頭痛・めまい・耳鳴りの治し方」  
監修/清水俊彦 推薦/佐渡島庸平  
新紀元社 (1,080円(税込))販売中。